

10. JP線のカットの方法（I. T. 機能／警報出力の切換機能を利用する場合のみ）

⚠ 警告

以下の作業説明に従って作業をされなかった場合、本来の性能・機能を発揮できなくなるばかりか、機器の異常動作を招き事故や火災・感電の原因となります。

※この作業は電動タイプのドライバはご使用にならないでください。ネジ山を傷める原因となり、カバーを固定できなくなります。
また、ミラーや素子の表面は絶対に触らないようにしてください。本来の検知性能を発揮できなくなり、思わぬ事故や損害を招くことがあります。

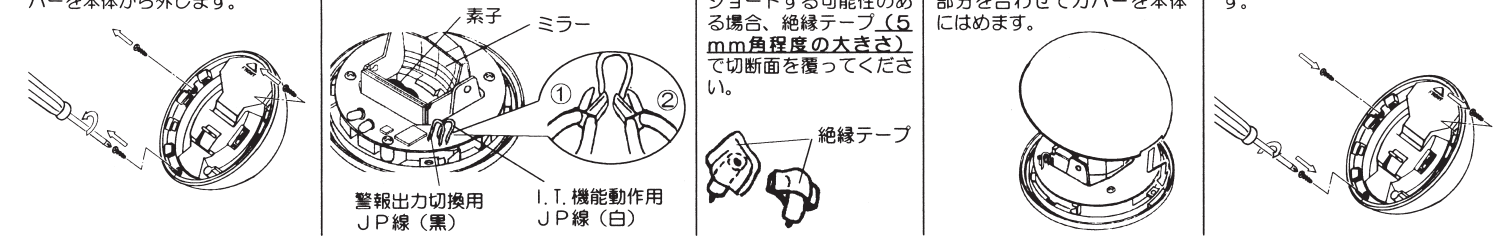
1) 本体裏側のカバーを止めているビス（3ヶ所）を取り外してカバーを本体から外します。

2) ニップを用いてご使用目的にあったJP線の端部を2ヶ所カットしてください。

3) カットしたJP線の端面が他の部分に触れてショートする可能性がある場合、絶縁テープ（5mm角程度の大きさ）で切断面を覆ってください。

4) 外した逆の手順で本体満面の突起とカバーの切り欠き部分を合わせてカバーを本体にはめます。

5) 先に外したビス（3ヶ所）を元のように締め付けて完了です。



11. 異常時の点検と処置

症 状	原 因	処 置／点 検 項 目
警報表示灯が点灯しない。	・供給電圧が不適切である。（断線・電圧低下） ・本体がしっかり取付ベースにはまっていない。 ・警報表示灯切換スイッチがOFFになっている。 ・検知エリアの方向が合っていない。 ・製品内／外にマスキングがされている。 ・ウォームアップが終了していない。	・規定の電圧が供給されているか、チェックして正常作動電圧を供給してください。 ・本体を一杯まで廻しロックスイッチがきっちり掛かる様にしてください。 ・警報表示灯切換スイッチをONにしてください。（第5章参照） ・検知エリアを正しくセットし直してください。（第2～4章参照） ・マスキング物体を取り除いた後ももう一度検知確認を行ってください。 ・ウォームアップ終了まで、約1分待つてください。
検知エリアに人がいないのに警報表示灯が点灯する。	・電源電圧が不足している。 ・検知エリア内に誤動作を起こすモノがある。（揺れるカーテン・ペット・ネズミ・FAX・ヒータ・電灯・太陽光・車のヘッドライトなど） ・取り付け部（ディテクタ自体）が振動などで揺れている。	・規定の電圧が供給されているか、チェックして正常作動電圧を供給してください。 ・検知エリア内にある誤動作要因を取り除くか、検知エリアの向きを多少移動してみる。 ・機器をしっかりとした所、もしくは振動しないように頑丈に取り付ける。
表示灯（赤又は黄色のLED）は点灯するが出力が出ない。	・配線の断線・短絡。 ・出力接点が他の機器の出力接点と並列に接続されている。 ・警報接点の溶着。（落着など）	・配線をチェックし、必要であれば交換・修理を行ってください。 ・配線を直列接続にしてください。 ・修理もしくは交換が必要です。お買い求めの販売店にご相談ください。
〔インテリジェントタンバ使用時〕 警報表示灯が2回点滅を繰り返す。	・マスキングによってインテリジェントタンバ機能が働いている。 ・設置時、ウォームアップ後にディテクタに検知信号が入っていない。 ・停電などによって電源がリセットされた。	・マスキング物体を取り除き、第7章を参照してディテクタに検知信号を入れて“警報表示灯の2回点滅”が消えることを確認してください。 ・ウォームアップ終了後、ディテクタに検知信号を入れて“警報表示灯の2回点滅”が消えることを確認してください。（第7章参照）
メモリ表示灯が点滅する。 （AS 機種のみ）	・ディテクタがマスキングされている。 ・ディテクタに強い光が当たっている、近くで強いノイズが発生している。 などの理由でアンチマスキングが誤動作している。 ・初期設定時に正しくセットされていない。	・マスキング物体を取り除き、5秒以上待つてり表示灯の点滅が消えることを確認してください。 ・光源やノイズの原因を取り除き、5秒以上待つてり表示灯の点滅が消えることを確認してください。 ・第7章に従って再度設定してください。
警報表示灯の点滅（ウォームアップ）が止まらない。	・電源電圧が足りない。 ・アンチマスキングの初期設定が出来ない。	・規定の電圧が供給されているか、チェックして正常作動電圧を供給してください。 ・第7章に従って再度設定してください。

※以上の点検の結果、なお不都合がありました際は販売店もしくは弊社までお申し出ください。

12. 仕様

型 式	JX-12W	JX-20N	JX-5S
検知エリア	立体警戒	面警戒	スポット警戒
	約85° 最長部12m	20m	最長部5m
検知ゾーン数	148本	32本	32本
	カーテン状エリア		スポット型エリア
検 知 方 式	パッシブインフラレッド方式		
検知速度	0.3～2.0m/秒		
検知感度	中：1.5℃・歩行速度0.5m/秒		
警報表示灯	発報時：赤の表示灯が点灯（スイッチにより消灯可能）		
（I. T. 出力表示）	I. T. 出力時：赤の表示灯が2回点滅を繰り返す		
（アラームメモリ表示）	メモリ時：黄色の表示灯が点灯（点灯開始時より約60分間点灯保持）		
警報保持時間	3.0±0.5秒		
警報出力	b接点（a接点に切換可）DC28V 0.2A（最大）		
I. T. 出力	b接点DC28V 0.2A（最大）		
タンバ	本体をはすと開		
パルスカウント	2、4、小動物 切換 2回固定		
ウォームアップ時間	約1分（ウォームアップ時：赤と黄色の表示灯が交互に点滅）		
電源電圧	DC9～18V（無極性）		
消費電流	b接点時：22mA（最大） a接点時：27mA（最大）		
取付場所	室内天井取付：取付高さ2～5m		
使用温度範囲	-20℃～+50℃		
使用湿度範囲	95%（最大）		
重量	220g		
別売品	天井埋込用プレート 型式：FA-12 壁付けブラケット：SMA-45		

※仕様は改良のため予告なく変更することがございます。

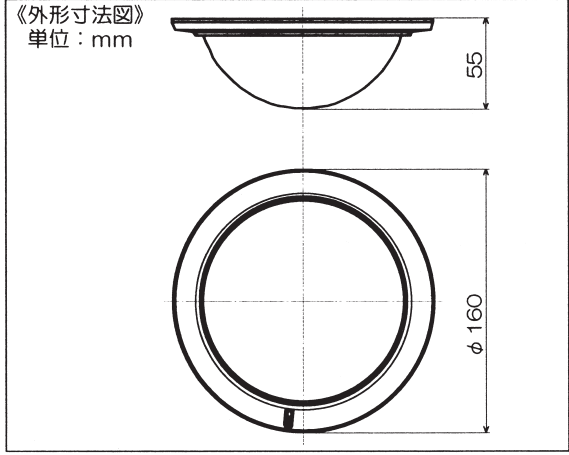
〔お断り〕この商品は侵入者を検知し警報を発するもので、盗難防止器ではありません。
万一発生した盗難事故による損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

《保証書》
JX-12W/JX-20N/JX-5S/JX-12W AS/JX-20N AS

保証期間 ※お買い上げ年月日	より 1年間	※販売店様名
お客様 ご住所 お名前 TEL（ ）	（お断り） ※印の欄はお買い上げ時に必ず記入を受けてください。 ご記入の無い場合、本書は無効となります。 本書は大切に保管して下さい。再発行は致しません。	

型 式	JX-12W AS	JX-20N AS
警報表示灯	発報時：赤の表示灯が点灯（スイッチにより消灯可能）	
（トラブル出力表示）	I. T. 出力時：赤の表示灯が2回点滅を繰り返す アラーム出力時：黄色の表示灯が点滅を繰り返す	
（アラームメモリ表示）	メモリ時：黄色の表示灯が点灯（点灯開始時より約60分間点灯保持）	
パルスカウント	2、4、小動物 切換 2回固定	
トラブル出力	b接点DC28V 0.2A（最大）	
消費電流	b接点時：42mA（最大） a接点時：47mA（最大）	
重量	210g	

《外形寸法図》
単位：mm



オプテックス株式会社
本 社：〒520-0101 滋賀県大津市雄等5丁目8番12号
TEL (077) 579-8630 FAX (077) 579-8170
この説明書は、再生紙を利用しております。 http://www.optex.co.jp

《保証規定》
I 保証の範囲
1 施工説明書に記載された正常な使用状態で保証期間中に万一故障が生じた場合、無償にて修理いたします。それ以外の責についてはご容赦ください。
2 修理を依頼される場合、お買い上げ店もしくは弊社宛に本書（保証書）を添えてお申し込みください。
3 この保証書は前面に記載された製品について、日本国内に限り適用いたします。
II 保証の条件
次に該当する故障は、保証期間内（お買い上げ日より1年間）であっても実費にて修理を申し受けることがあります。
1 誤った取扱い、不当な修理・改造を受けた製品の故障。また、故意・不注意に起因する損傷や故障。
2 天災地災・自然災害などの不可抗力による損傷。
3 本書前面に必要事項の記入が無い場合。また、本書の提示が無い場合。

天井取付タイプ・パッシブインフラレッドディテクタ

JX-12W, JX-20N, JX-5S
立体警戒 面警戒 スポット警戒

JX-12W AS, JX-20N AS
立体警戒・アンチサボタージュ 面警戒・アンチサボタージュ

安全に正しくお使いいただくために

安全上のご注意

必ずお守りください。

この施工説明書では機器をお使いになるご本人や他の人への危害・財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただく事を次のように説明しています。
表示内容とその意味をよくご理解していただいてから本文をお読みください。

⚠ 警告	⚠ 注意	⊘
この内容を見視して誤った取扱いをする と、人が死亡または重傷を負う可能性が 想定される内容を示しています。	この内容を見視して誤った取扱いをする と、人が 傷害を負う可能性または物的損害のみが 発生する 可能性が想定される内容を示しています。	この様な絵表示は、してはい けない「禁止」内容を表して います。

この説明書内に使用している説明・イラスト類は、JX-12Wを基本にしています。機種によって内容が異なる場合がございますので、詳しくは本文中の説明をよくお読みください。

1. 使用・設置上の注意

パッシブインフラレッドディテクタは、人体からの熱エネルギーを感じて作動するディテクタです。
以下の様な場所には取り付けしないでください。

① 太陽の直射日光が当たる場所。

② 急激な温度変化のある場所。

③ 水、湿気、油などがかかる場所。

④ 検知エリアがさえぎられるような場所。

⑤ 屋外では使用しないでください。

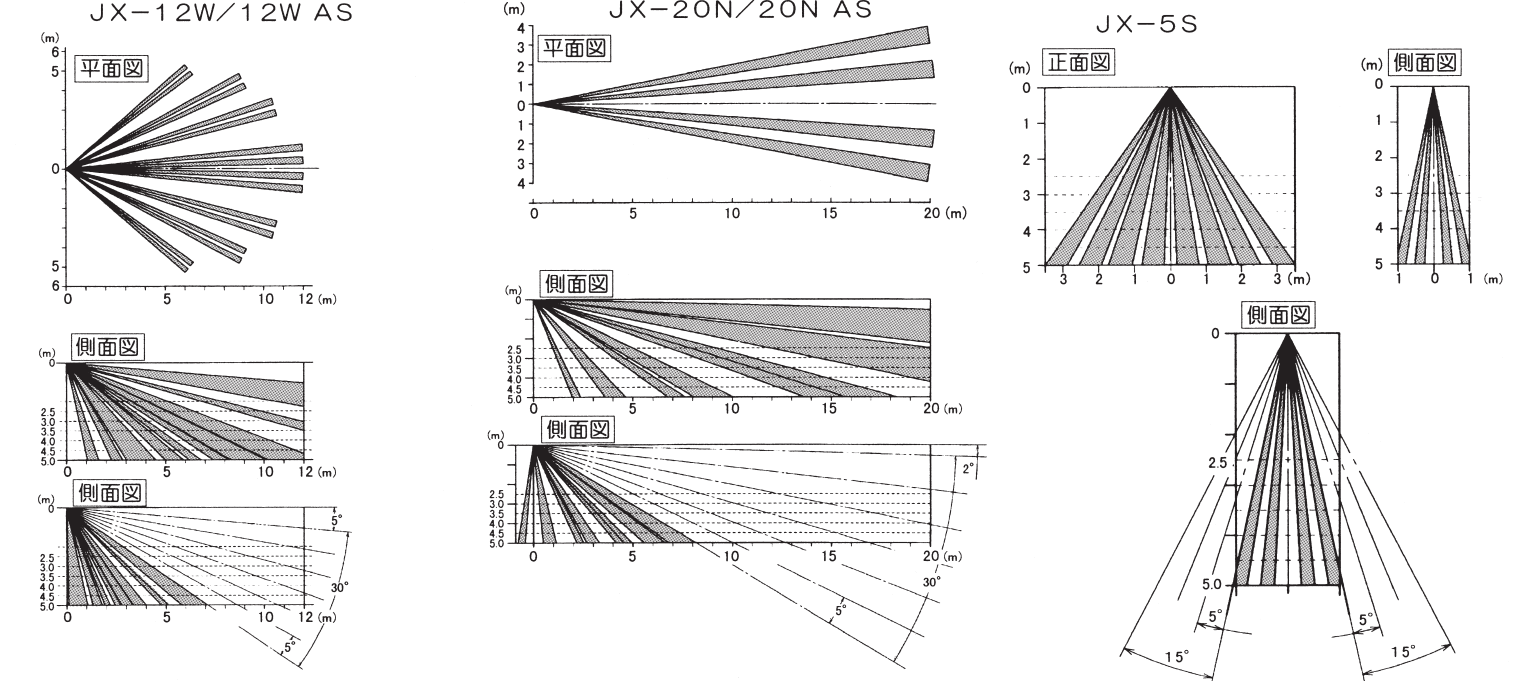
⑥ 取付高さが5mを超えない様にしてください。
壁面には直接取り付けしないでください。

⑦ ⚠ 警告
修理・改造は絶対に行わないでください。
事故や火災・感電の原因となります。

⑧ ⚠ 警告
水が掛かった、異物が入った、煙が出る、変な匂いがする、などの異常が起こった時は直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。
事故や火災・感電の原因となります。

⑨ ⚠ 注意
確実に取り付けてください。
落下により、けがの原因になります。

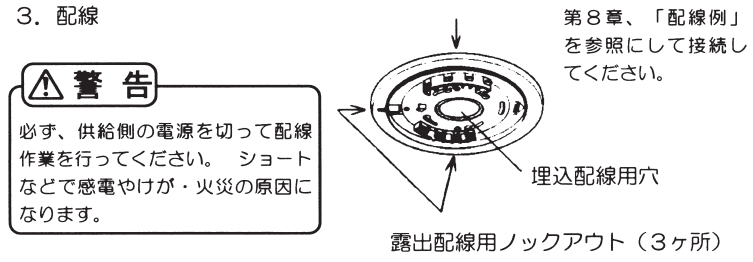
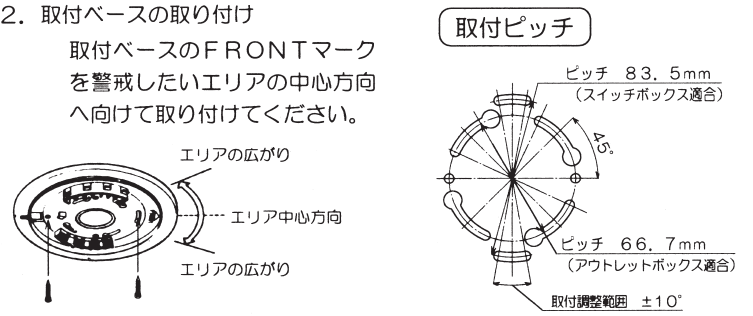
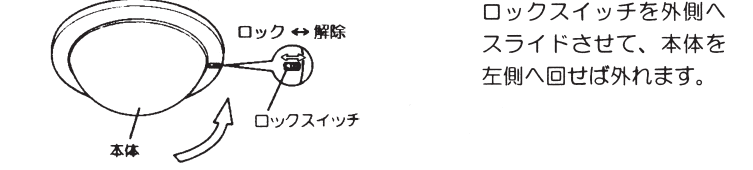
2. 検知エリア



特 長	
・高密度なエリア構成。（立体警戒、面警戒、スポット警戒） ・検知感度三段階切換。（高、中、低） ・高度なパルスカウント制御機能。 （2、4、小動物対応：12Wタイプのみ、20Nタイプ・5S：2回固定） ・インテリジェントタンバ機能搭載。（全機種：第7章－1参照） ・アンチマスキング機能搭載。（ASモデルのみ：第7章－2参照） ・アラームメモリ機能搭載。（全機種） ・温度補償回路搭載。（全機種） ・ダブルコンダクティブフィルタ（高性能外乱光カットフィルタ）。（ASモデルのみ）	
機 能 一 覧 表	
機 能	機 種
感度切換	JX-12W JX-20N JX-5S JX-12W AS JX-20N AS
パルスカウント切換	○ ○ — ○ —
警報表示灯切換	○ ○ ○ ○ ○
インテリジェントタンバ	○ ○ ○ ○ ○
アンチマスキング	— — — ○ ○

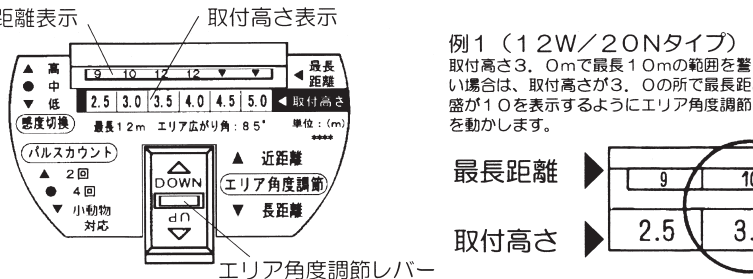
3. 設置方法

- 本体を取付ベースから外します。



4. 検知エリアの設定

- エリアの上下（前後）角度は本体裏側のエリア角度調節レバーで行ってください。



5. 各種機能設定

- 検知感度切換スイッチ（図1）
出荷時のスイッチ位置は「中」になっています。通常は「中」でご使用ください。また、必要に応じて切り換えてご使用ください。

- パルスカウント切換スイッチ（図1）〔JX-12W/12W ASのみ〕
2回：出荷時の位置です。通常はこの位置で使用してください。
4回：温度変化の激しい場所、外乱要因の多い場所ではこちらに切り換えてください。
小動物：小動物による誤動作や風の影響などが特に激しい環境でお使いください。

- 小動物モードでは、人体の検知性能が通常に比べてやや劣ります。
必ず、検知確認を行い検知性能に問題がないことを確認のうえご使用ください。

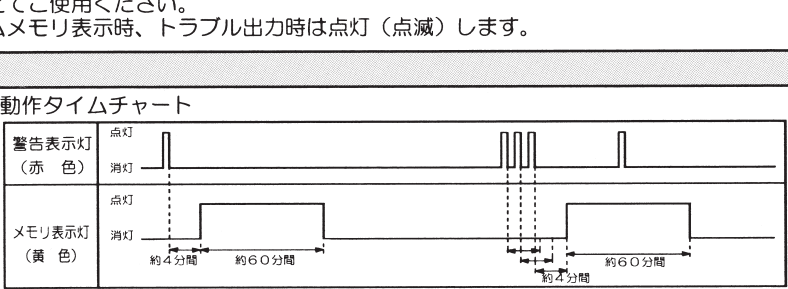
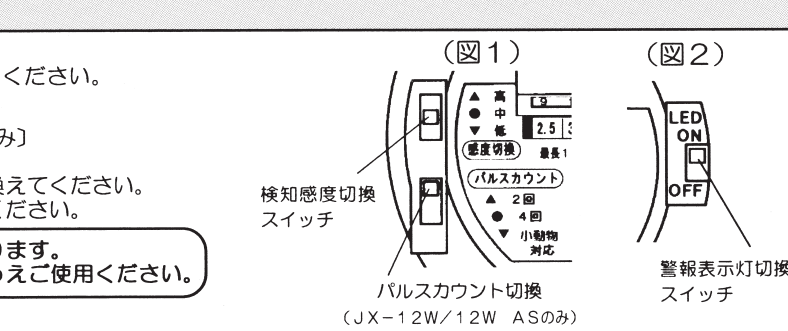
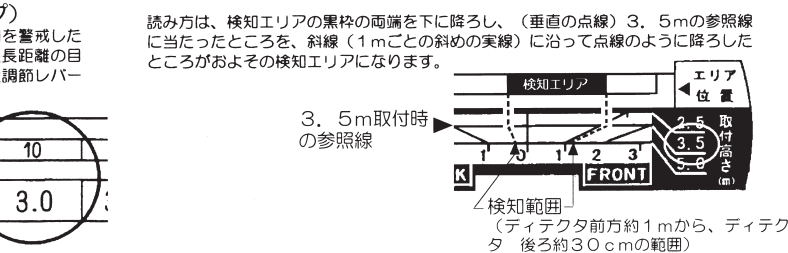
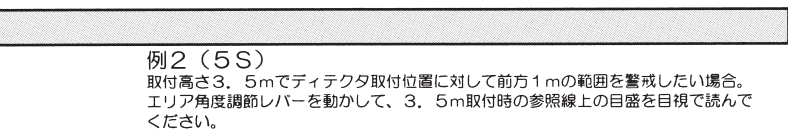
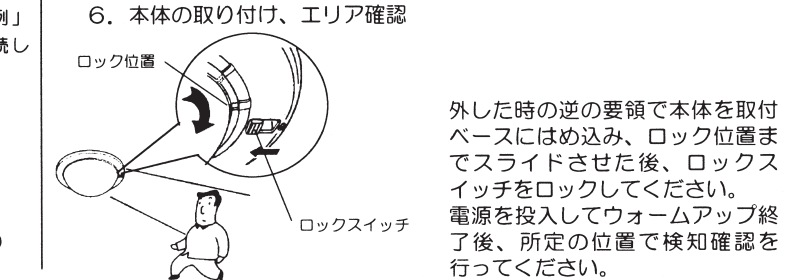
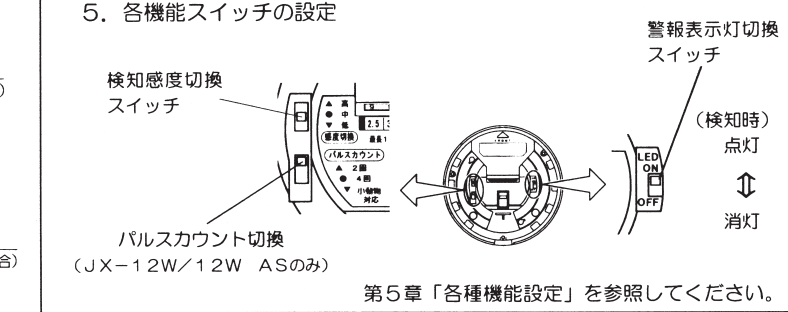
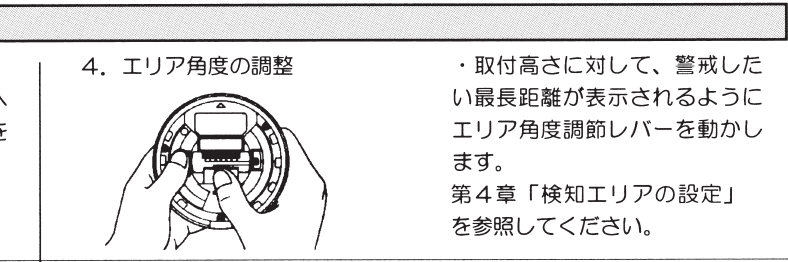
- 警報表示灯切換スイッチ（図2）
出荷時のスイッチ位置は「点灯」になっています。必要に応じて切り換えてご使用ください。なお、このスイッチのポジションに関係なくウォームアップ時、アラームメモリ表示時、トラブル出力時は点灯（点滅）します。

6. アラームメモリ機能

- アラームメモリ機能とは。
複数個のディテクタを使用している機械警備の現場において、どのディテクタが発報したかを、メモリ表示灯の点灯により、知ることが出来る機能です。

- 表示方法
表示灯は、警報表示灯（赤色）とメモリ表示灯（黄色）の2種類があります。メモリ表示灯は、発報後4分間は点灯せず、その後約60分間点灯し続けます。（4分間の間に発報すると、その時点で更に4分間はメモリ表示灯は点灯しません（ディレイタイマ式））

機 能	機 種
感度切換	JX-12W JX-20N JX-5S JX-12W AS JX-20N AS
パルスカウント切換	○ ○ — ○ —
警報表示灯切換	○ ○ ○ ○ ○
インテリジェントタンバ	○ ○ ○ ○ ○
アンチマスキング	— — — ○ ○



7. アンチサボタージュ機能

- JXシリーズには、ディテクタへのイタズラ（故意によるもの、犯罪を目的としたマスキング）により「人体検知性能の低下を検出する」機能として、インテリジェントタンバ機能（全機種）とアンチマスキング機能（JX-12W AS/20N ASのみ）を盛り込んでいます。

- インテリジェントタンバ機能〔I. T. 〕（全機種）

- インテリジェントタンバは、動作中のディテクタを取り外してマスキングをした後、再び取り付けられた時に、ディテクタが取り外されたことを、タンバ配線をしなくても検出できる機能です。

- ＊出荷時の状態ではこの機能は動作しません。 本体内の白いJP線を、カット（作業は第10章を参照して下さい）することで使用できます。

- 動作について
本体を外した上で、マスキング（紙を貼る、スプレーをする等）をして再び取り付けられると、ウォームアップ終了後、人を検知しくなります。この状態が約5分間続くと異常を検出します。 ディテクタがこの様な状態を検出すると、“警報表示灯が2回点滅”を繰り返し、連続発報となります。

- ＊I. T. 出力時、表示灯は、警報表示灯切換スイッチの点灯/消灯位置に関わらず、動作します。

- 機能の利用方法
第10章「JP線のカットの仕方」に従って作業を終えた後、ディテクタを取り付けて電源を投入します。ウォームアップ終了後、5分以内にエリア内でウォークテストを行い、ディテクタを発報させてください。

- 5分以内にディテクタが発報していないときのみ、インテリジェントタンバ機能が働いて、“警報表示灯が2回点滅”を繰り返し、連続発報状態になります。 この様な場合はエリア内でウォークテストを行いディテクタが発報すれば正常に動作します。

- 異常検出時（インテリジェントタンバ作動時）の出力について
機種により、インテリジェントタンバ出力の名称及び、出力先の端子が異なります。
JX-12W/20N〔I. T. 出力〕 →警報出力端子より通常の警報信号として出力されます。（専用の配線が不要です）
JX-12W AS/20N AS〔トラブル出力〕 →タンバ端子より通常のタンバ信号として出力されます。（タンバの配線を必ず行ってください。）

- リセットの方法
マスキング物体を取り除いたのち、ディテクタを発報させて、“警報表示灯の2回点滅”が消えれば正常に動作します。停電などによって電源がリセットされた場合も、ディテクタに検知信号を入れて、“警報表示灯の2回点滅”が消えれば正常に動作します。

- 注意していただく項目（下記のような場合は故障ではありません）
・停電などによって、ディテクタの電源がリセットされた場合、5分以内に検知信号が入らないとインテリジェントタンバが働き、連続発報状態になります。この様なことを避けるため、必ずバックアップ電源をご使用ください。
・新規物件などで、警備システムをいったん電源OFFにして引き渡す場合も、電源投入後インテリジェントタンバが働き、連続発報状態になります。この様な場合も、ディテクタに検知信号を入れて、“警報表示灯の2回点滅”が消えれば正常に動作します。
・マスキングをされた時でも、下記の様な場合は、ウォームアップ終了後にインテリジェントタンバ機能がリセットされてしまい、動かないことがあります。例： 1）一部分のエリアしか、マスキングされていない場合。 2）マスキング物体が薄くて、ごく近くでは人体を検知できる場合。等。

- アンチマスキング機能（JX-12W AS/20N ASのみ）

- アンチマスキングは、ディテクタを遮蔽物で覆うなどして、人体の検知性能に支障がでた場合に、これを検出する機能です。

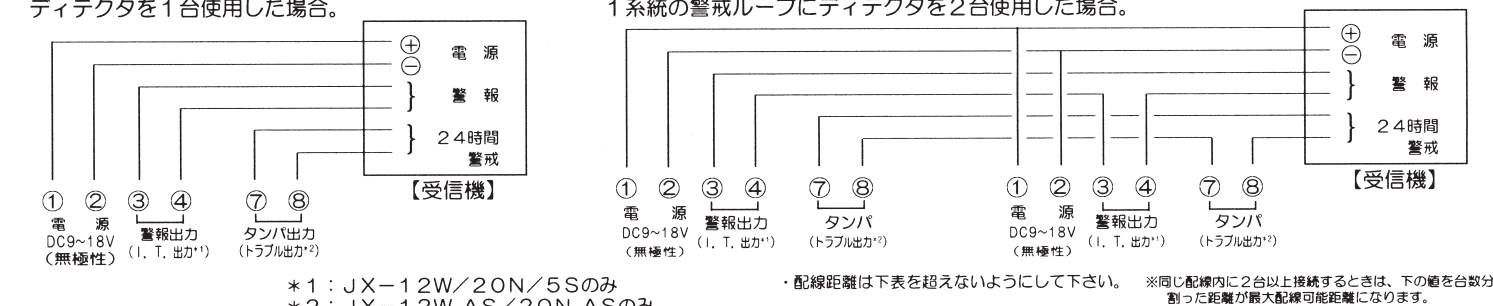
- 動作について
ディテクタの前面（約5cm以内）が、紙などの遮蔽物で覆われた場合や、スプレーを吹き付けられた場合などに、その状態が約10秒以上続くと異常を検出します。 ディテクタがこの様な状態を検出すると、“メモリ表示灯が点滅”を続け、トラブル出力が出ます。
＊アンチマスキング出力時、表示灯は、警報表示灯切換スイッチの点灯/消灯位置に関わらず、動作します。
＊アンチマスキングの出力は、タンバ端子から、トラブル出力として出力されます。〔出力はb接点出力のみです。（a接点には、切り換え出来ません。）〕

- 機能の利用方法
タンバ配線を必ず行ってください。（第8章参照）
電源投入後、約1分間で初期設定を行います。 この間に、ディテクタの近くに物（頭・手など）や、外的要因（強力な電波発生源・明るいランプ等）が、直近にあると初期設定が正しくできません。 取付後（電源投入後）10秒以内に、ディテクタから50cm以上離れてください。外的要因がある場合も、ディテクタから離してください。初期設定が正しくできると、ウォームアップ（赤色の表示灯の点滅）が終了します。

- リセットの方法
ディテクタのマスキングが、取り除かれると、約3秒で自動的にリセットされます。

- 注意していただく項目（下記のような場合は故障ではありません）
・全てのマスキング物体を検出できるわけではありません。
例：透明なスプレーや反射率の低いもの、黒の紙・スポンジ、ディテクタから5cm以上遠くにある遮蔽物など。
・外的要因によって誤動作することがあります。そのような場合は、ディテクタの取付位置を変えるか、誤動作要因をディテクタから離してください。
例： 1）太陽光が当たる（反射も含む）場合や蛍光灯・明るいランプ等が直近にある場合。 2）強力な電波発生源が近くにある場合。
3）虫などが多く発生した場合。 4）吊り広告・カーテンなどが揺れてディテクタの前にくる場合。
・マスキング後に電源がリセットされると、アンチマスキング機能が動かないことがあります。この様な場合は、インテリジェントタンバ機能を併用してください。

8. 配線例



供給電圧		JX-12W/20N/5S		JX-12W AS/20N AS	
線の太さ	b接点	DC12V		DC14V	
		a接点	b接点	a接点	b接点
0.3 mm ² (φ0.65mm)	210m	170m	430m	350m	110m
0.5 mm ² (φ0.8 mm)	330m	260m	660m	530m	170m
0.64mm ² (φ0.9 mm)	410m	340m	820m	680m	210m

9. 警報出力の切換

- 警報出力の切換
JXシリーズは特殊な用途向け（例：受信機側の入力形態の違うものや、監視カメラの起動用途など。）に、警報出力の出力形態を、通常のb接点からa接点に切り換えて、使用することができます。

- 機能の利用方法
警報出力の切換は、第10章の「JP線のカットの仕方」に従って黒色のJP線をカットします。

- 注意していただく項目
＊この機能をご使用になると、インテリジェントタンバ機能は使用出来なくなります。
＊この機能をご使用になった場合、電源が切れた時も、“接点は開いたまま”になります。

